

- おおさかマイボトルパートナーズの取組趣旨
「マイボトルの利用環境の改善により、府民が日常的にマイボトルを携帯するようになることを目指す」
 - 取組目標「給水スポットの新規設置数（1,000カ所）」
 - 目指すべきゴール「マイボトルを日常的に携帯する人の割合（8割）」
- キックオフ会議で示した内容
- ・ 給水スポット・・・府民が**水分・飲料**を補充できる場所
（水分：ボトルディスペンサー型、飲み口型かは不問、
飲料：有料無料を問わずマイボトルへの提供が受けられるもの）
 - ・ カウント方法・・・取組趣旨に沿って設置した数を集約

- ① 「給水スポット」という名称について、受け取るイメージと補充できる飲料が異なる場合がある（お茶、コーヒー等が補充できる場合がある）
- ② 取組目標であるスポットの新規設置数を公表しているが、カウント対象が明確化されておらず、メンバーの取組みが適切に反映されていない。
 - 【カウントされている例】
メンバーが設置主体となっているもの（例：店舗に設置した給水機）
 - 【カウントされていない例】
メンバーが働きかけて設置されたもの（例：給水機メーカーが客先に設置した給水機）

考え方の整理方針（案）

1 給水スポットの呼称変更

水以外の飲料をマイボトルに補充できる場合も対象であることがわかりやすいよう、呼称を「マイボトルスポット」に変更 ※加えて略称も考えてはどうか 例：マイボ

2 カウント方法の明確化

パートナーズの趣旨やメンバーによる給水スポット普及の取組みを適切に取組目標に反映するため、カウント対象を以下のとおり明確化する。

<カウント対象>

以下のいずれかに該当するもの

・ メンバーが設置主体となっているもの（例：店舗に設置した給水機）

・ メンバーが働きかけて設置されたもの（例：給水機メーカーが客先に設置した給水機）

※ オープンな場所に設置されたものに限らず、オフィスや学校など特定の者のみが利用できるものも含む。

※ パートナーズ加入後に設置されたことが確認できるものに限る。

新・取組目標（案）

上記方針にてカウント方法を明確化した場合、

取組目標「給水スポットの新規設置数」が1,000ヵ所を超える見込みであるため、

新たに「給水スポットの新規設置数 **2,025ヵ所**」を目標とする。（目標2025年）

おおさかマイボトルパートナーズ取組目標の考え方の整理について

(参考) 給水スポット呼称に係る意見

ウォータースタンド	<p>マイボトルスポットに賛成です。</p> <p>理由① 水以外の飲料が出てくる既設の機械も含めることができるから（給茶機など）</p> <p>理由② 粉末のお茶、コーヒー、スポーツドリンク等にも利用してもらうためには給水という言葉だと、水をのむだけの目的でしか使用できないように思われてしまうから。</p> <p>理由③ 飲み終えたペットボトルに給水してしまう方が多い。ペットボトルを買わない文化を根付かせるためにもマイボトルで利用してもらう機械であるというアピールになる。また、ペットボトルに給水することで、周囲に水がこぼれて清掃や衛生面での問題があるので『マイボトル』という言葉がそういった問題の抑制に繋がることを期待できる。</p>
BRITA	<p>記載いただいている通り水以外も給水されるケースもあり同変更にも異論はありません。</p>
吹田市	<p>「マイボトルスポット」に変更することに賛成である。理由は、水以外の飲料をマイボトルに補充できる場合も対象であることがわかりやすいようにという事務局の提案に納得したため。</p>
象印 (第1回会議議事録抜粋)	<p>2006年から「給茶スポット」という名称で、ほぼマイボトルスポットと同じものを展開してきている。名称については今も悩んでいるところ。一つ検討が必要な点として、「給」という字が「給食」の「給」と同じなので、無料と勘違いされることが多い。有料ということで、クレームが入ってしまう場合がある。一方、「給」という字が動作を表すので、「入れる」ということがイメージしやすいのがメリット。象印でも「マイボトルスポット」に変えるかなど色々検討したが、答えがまだ出ていない。マイボトルも浸透してきたので、動作的な意味をイメージする方も増えてきているのではないかと思う。</p>
ecotone	<p>マイボトルは和製英語です。容器自体の総称をネーミングに活用するのではなく、その行為/行動を引き出し、具体的な行動変容を促すネーミングを新たに考えた方がこれからの時代にマッチするのではないのでしょうか？海外では「Refill」という言葉がスタンダードになっています。国際スタンダードにしていくこと、今後また外国からの観光客が増えていくということなどを考えると、「リフィルスポット」と呼称を新たに浸透させていってはいかがでしょうか？</p>
水Do (第1回会議議事録抜粋)	<p>大阪の場合はそもそもこのスキームをマイボトルパートナーズという名前にしているのもそれとも兼ね合いもあるかと思う。給水スポットという名称を使い始めたのは水Do！ネットワークだと思うが、概念としては必ずしもマイボトルに給水するというものだけではなく、直接飲むタイプも含めて、水分補給ができる場所という意味で使い始めた。マイボトルを忘れる場合もあるだろうし、公園の水飲み場なども大切な水分補給の場なので、登録できなくなってしまうというのは、考える必要があるかと思う。また、水の無料提供と、カフェなどがコーヒーなどを、普通は紙コップに入れて提供しているけれどもマイボトルに入れて提供も可能ですよ、というのは、社会的な人助けという意味での無料給水とは違うかなと思う。ビジネスとしてやっている分については、おおさかほかさんマップにすみ分けられるのではないかと思う。その辺りも検討してはどうか。</p>